



**Data**

監督・脚本: ドロン・パズ ヨアヴ・パズ

出演: アウグスト・ディール/マイケル・アローニ/シルヴィア・フックス/イーシャイ・ゴーラン

## 👁️👁️ みどころ

数々の“ホロコーストもの”から教えられる“知られざる歴史”は多い。『ディファイアンス』(08年)では、“だんご三兄弟”ならぬ“ヒットラーと闘ったユダヤ人三兄弟”を知った。しかし、本作では“ユダヤ旅団”や“ハガナー”を知り、ヘブライ語で“復讐者”を意味する“ナカム”と、そのリーダーたる“アツバ・コヴナー”を知ることに。

さらに、「プランA」、「プランB」は日常用語だが、大戦後、“ナカム”が計画した600万人のドイツ人を殺害する「プランA」とは一体ナニ？

こりゃ、すごい！映画は“つくりもの”だが、さあ、“復讐者”たちのスクリーン上での展開は・・・？

—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————\*—————

### ■□■第二次世界大戦直後の“知られざる歴史”にビックリ！■□■

私は中学時代から歴史が大好きだったから、今でもNHKの“歴史秘話ストーリー”のような番組が大好きだし、“大河ドラマ”の鑑賞も欠かせない。映画でも“歴史モノ”が大好きだ。しかし、知っているようで知らないのが“歴史モノ”であるうえ、たまには本作のような、それまで全く知らなかった“歴史モノ”に巡り合うこともある。

『復讐者たち』という邦題を見た時、私はすぐにアラン・ドロン主演の『冒険者たち』(67年)を思い出したが、本作は原題が『Nakam』で、英題が『PLAN A』。ちなみに、『トロイ (TROY)』(04年) (『シネマ4』59頁)、『ディパーテッド』(06年) (『シネマ14』57頁)、『ジェシー・ジェームズの暗殺』(07年) (『シネマ18』35頁)、『ツリー・オブ・ライフ』(11年) (『シネマ27』14頁)、『マネー・ショート 華麗なる大逆転』(15年) (『シネマ37』232頁)、『ムーンライト』(16年) (『シネマ40』10頁)、『ビール・ストリートの恋人たち』(18年) (『シネマ43』32頁) 等の名作を製作

し続けている映画製作会社の名前がブラッド・ピット率いる「プランBエンターテインメント」だが、本作の英題『PLAN A』とは一体ナニ？

一般的にも「プランA」と「プランB」という言葉は使われているが、本作の原題とされている『PLAN A』とは、実は第二次世界大戦直後の1946年に計画されたユダヤ人によるドイツ人への恐ろしい復讐計画のことらしい。それは、ナチス・ドイツによるユダヤ人へのホロコーストの復讐として、“目には目を、歯には歯を”の精神に沿って、600万人のドイツ人を殺すというもの。その手段は、ニュルンベルク、ワイマール、ハンブルク、フランクフルト、ミュンヘンという5つのドイツの都市の水道水に毒を流すというものだ。この『PLAN A』の実行計画を練ったのは、アッパ・コヴナーという男が率いる“ナカム(Nakam)”という超過激組織らしい。ええ、知らなかったなあ、そんな歴史は！まさに、第二次世界大戦直後のそんな“知られざる歴史”にビックリ！こんな映画から、しっかり勉強しなければ！

## ■□■この男(ユダヤ人)はなぜここに？彼の妻子は？■□■

本作はテレンス・マリック監督の最新作『名もなき生涯』(19年)『シネマ46』(82頁)で主人公役を熱演した俳優、アウグスト・ディール演じるマックスが、収容所から生き残ったユダヤ人として、とあるドイツ人の家を尋ねるシークエンスから始まる。そんな“招かれざる客”をドイツ人一家が警戒したのは当然だが、銃を手を表に出してきた家長に対してマックスは、「なぜ我々を密告した？」「ルートとベンジャミンはどこに？」と詰問したから、事態は深刻だ。それに対して、家長は銃尻でマックスを殴りつけた上、「敷地に入るな！」「終戦でユダヤ人が安泰だと思うな！」と言い返したのはある意味当然だが……。

奇跡的に過酷な収容所から生き延びることができたマックスは何とか故郷に戻り、妻子の安否を探ろうとしていたわけだが、この様子ではそれは難しいようだ。そんな失意の中、近くのユダヤ人キャンプに潜入したマックスは、英国軍の“ユダヤ旅団”と遭遇し、ミハイル(マイケル・アローニ)と知り合うことに。しかし、“ユダヤ旅団”って一体ナニ？

## ■□■ユダヤ人旅団とは？その役割は？■□■

『復讐者たち』の「プレス原稿」にある、武井彩佳(学習院女子大学教授)のコラム「犠牲者の復讐についてのエッセイ」によれば、1944年末、既に連合軍が上陸していたイタリアに、イギリス軍の一部隊としてパレスチナのユダヤ人により編成された部隊がやってきたらしい。ヨーロッパの歴史において、武装したユダヤ人を目にするのはほとんどなかったから、白地に青のダヴィデの星が描かれた旗をたなびかせ、軍用車で北上するこの部隊を見て、「ユダヤ人が復讐に来た」と恐怖した者たちは少なくなかったようだ。このユダヤ旅団の一部は、イタリア北部やオーストリアのチロル地方で活動する間、民間人のあいだに身をひそめる親衛隊将校らを狩り出し、処刑して回ったらしい。

同氏のコラムはそれについて、「もちろんこうした『裏』の歴史は、公式の歴史記述には登場しない。加えて関係者は長く沈黙を守ってきたため、実際にどれほどのナチが処刑さ

れたか正確な数は知り得ない」と書かれている。なるほど、なるほど。『ディファイアンス』（08年）『シネマ22』（109頁）では、“だんご三兄弟”ならぬ、“ヒットラーと闘ったユダヤ人三兄弟”の物語を知ってびっくりさせられたが、本作では“ユダヤ旅団”があったことにビックリ。

他方、スクリーン上では、ある女性から、妻子がナチスの手によって無残な殺され方をしたと聞かされたマックスが、やり場のない怒りと悲しみに暮れるシークエンスが映し出された後のマックスの行動に注目！それは、ユダヤ人キャンプ内で知り合いになったミハイルが“ユダヤ旅団”の一員として、ナチスの残党を密かに処刑していることを知ったマックスが、「仲間に入れてくれ」と申し出ること。その動機はもちろん妻子を殺害されたナチス・ドイツへの怒りと復讐だが、“ユダヤ旅団”はマックスを受け入れるの？

### ■□■ナカム(Nakam)とは？アッバ・コヴナーとは？■□■

“ナカム(Nakam)”について、また、アッバ・コヴナーについて、Wikipedia は詳しく解説している。また、「プランA」、「プランB」についても詳しく解説している。それによると、ヘブライ語の“復讐”を意味する「ナカム」とは、1945年に、ホロコーストの間に600万人のユダヤ人の殺害に対する復讐としてドイツ人とナチスを殺そうとした約50人のホロコースト生存者のグループのこと。また、「アッバ・コヴナー」はそのリーダーの名前だ。ソ連のパルチザンとして戦いながら戦争を生き延びた彼は、戦後、600万人のドイツ人を殺害するという「プランA」を計画し、その実行に使うための大量の毒薬の獲得には成功したものの、帰りの船内でイギリスの警察に逮捕されたため、「プランA」は失敗に終わったようだ。この「ナカム」については、当然ながら前述のコラム「犠牲者の復讐についてのエッセイ」でも詳しく解説してくれているので、これは必読！

ミハイルに頼み込み、晴れてユダヤ旅団の一員になったマックスがある日、とある森の中でユダヤ人のパルチザン組織と遭遇したが、これが「ナカム」らしい。戦争の終結を知らないまま潜伏していたその一味は自らをナカム（復讐者）と称し、ユダヤ旅団よりもはるかに過激な報復活動を実行している組織だったが、その実態は？他方、ユダヤ旅団での任務が完了したミハイルは故郷パレスチナの軍事組織“ハガナー”に入隊することになったが、この“ハガナー”って一体ナニ？本作では本当に知られざる歴史が次々と！

### ■□■ハガナーとは？ハガナーはナカムと対立？■□■

任務を完了したミハイルが新たに入隊することになった、“ハガナー”とは、パレスチナの軍事組織のこと。そして、Wikipedia は「ハガナー」について、「かつて存在したユダヤ人の軍事組織のこと。イスラエル国防軍の基礎となった」と解説している。また、その歴史は長い、「大戦終了後には、ユダヤ人移民促進と国家建設のために右派のエツェルやレヒと組んで破壊活動を含む反英行動を行ったが、小規模のエツェルやレヒと違い失うものが多く、逆に英国当局の圧力で右派ユダヤ人の拘束に協力した」と解説されている。

そんなハガナーでの本作に見るミハイルの新たな任務は、ユダヤの危険分子であるナカ

ムの行動を監視すること。元ナチスのみならず、ドイツの民間人に対しても憎悪をたぎらせているナカムは、今、ニュルンベルクで大規模な復讐計画をもくろんでいるらしい。そんな驚くべき話を聞いたマックスは、恩あるミハイルへの協力を約束し、ミハイルからハガナーの身分証を受け取ったが、さあ、彼はそんなハガナーの一員として行動するの？それとも・・・？

## ■□■ナカムの女性アンナに注目！憎しみと悲しみ、任務は？■□■

『スターリングラード』（01年）（『シネマ1』8頁）は、スナイパー（狙撃手）同士の対決を描いたすごい映画だったが、同時に、同作で見た、あっと驚く手に汗握る緊張したベッドシーンは生唾モノで、歴史に残る名ベッドシーンだった。しかして、本作でも、一瞬それと同じような、歴史に残る名ベッドシーンが登場するので、それに注目！そのお相手は、かつて森の中でマックスの危ういところを救ってくれたナカムの女性、アンナ（シルヴィア・フークス）だ。アンナはマックスの妻子が無残な殺され方をしたことを教えてくれた女性だが、それはアンナも同じ立場だったから。つまり、彼女はその地獄を自ら体験していたわけだ。

そんなアンナが今、ニュルンベルクでナカムのメンバーとして、活動していたのは当然かもしれない。しかし、マックスは今、ハガナーの一員として、ナカムが計画している大規模な復讐計画の内容を探る任務に従事しているのだから、アンナに近づくのは危険。そう思っていると、案の定、アンナの後をつけたマックスは発見され、ナカムのリーダー、アッパ・コヴナー（イーシャイ・ゴーラン）の尋問を受けることになったが、そこでのマックスの処分は？ここらあたりの心理描写や個々の展開は迫力満点だが、アッパがマックスをあっさり許したのが意外なら、アッパがマックスとアンナの2人に一夜の寝床を提供したのも意外だ。

他方、その日の深夜、アンナの枕もとで、ドイツの5つの都市に意味ありげな印をつけられた地図を発見したマックスは、翌朝にはアンナら3人のメンバーが水道施設の復興工事現場で働いていることを探り当てることに。そして、ナカムの狙いは水道水に毒物を混入し、ドイツの市民600万人を殺害することだという情報をミハイルに伝えたが、その後の展開は？マックスは、今後のハガナーの一員としてミハイルの指示どおり、スパイ役に徹するの？それとも、アッパやアンナに共鳴してハガナーを裏切り、アッパに協力するの？もっとも、「プランA」が成功するか否かのカギは、アッパがパレスチナから大量の毒物を持って帰って来れるかどうかだが・・・。

## ■□■600万人のドイツ人の命の水に毒を！？その入手は？■□■

近時、「紀州のドンファン」こと野崎幸助の殺人事件の容疑者として、元妻の須藤早貴が逮捕された。TV報道によれば、彼女はネット上で野崎氏の死亡原因となった覚醒剤を入手するべく動いていたそうだが、さて、公判における殺人の立証は？

そんな個人レベルの問題も大変だが、今、マックスがアンナらと共に水道工事の現場で

働く中でたどり着いた、恐るべき「プランA」の内容は、水道水に大量の毒物を混入することによって、それを飲む600万人のドイツ人を殺害するというもの。アッパが忽然と姿を消したのは、そのための大量の毒物を調達するべく、パレスチナに飛んだためらしい。前述のように、ユダヤ人の軍事組織であるハガナーは、同じユダヤ人の組織ながら、極右で危険なナカムを摘発すべく英国に協力していた。マックスが水道工事の現場に潜入し、アンナ達と共に働いていたのは、ミハイルのスパイとしてアッパやアンナ達の動きを監視するためだ。しかし、マックスのナチス・ドイツに対する恨みや復讐心はアンナと同じだ。そう考えると、ハガナーの一員として行動していたはずのマックスは、いつの間にかアンナと同じように、ナカムがもくろむ「プランA」の実行に協力するのでは・・・？

スクリーン上を見ていると、そんな思いがどんどん強くなっていく。そんな展開の中、大量の毒物調達のためパレスチナに赴いていたアッパの動きは如何に？本作はクライマックスに向けてそれが焦点になっていく。歴史上の事実は [Wikipedia](#) を読めばわかるが、映画はあくまで作り物だ。しかして、本作を監督、脚本したドロン・パズ、ヨアヴ・パズ兄弟は、本作のクライマックスを如何に描くの？600万人のドイツ人が飲む水道水に大量の毒物は混入されるの？それは、あなた自身の目でしっかりと！

2021（令和3）年5月12日記